

心電図モニタの取扱い時の注意点について

(PMDA 医療安全情報 No.29 2011.12 月)

日常茶飯事使用する心電図モニタですが、その取り扱い時の注意点について、医薬品医療機器総合機構より医療安全情報が出されました。

- (事例 1) ベッドサイドモニタのアラームが鳴っていたので訪室すると、モニタ上の心電図波形が乱れており、確認すると患者に装着している電極がはがれていた。
- (事例 2) 受信不良アラームが鳴っていたので確認すると、患者に装着した送信機の電池が消耗しており、セントラルモニタで受信されていなかった。
- (事例 3) モニタ用アンテナから遠い病室で患者のモニタリングを行ったため、送信機の電波をセントラルモニタでうまく受信できず、頻回に受信不良アラームが鳴った。



◆・・・安全使用のために注意するポイント・・・◆

1. **電極はがれ**：電極は粘着力が低下する前に、定期的に交換すること。
⇒電極がはがれる前に交換することで、アラームの発生を軽減することができます。
2. **電池切れ**：セントラルモニタに電池交換のマークが表示されたら、アラームの有無によらず送信機の電池を速やかに交換すること。
⇒アラーム音、電池交換の表示に注意しましょう。
3. **電波状況**：受信可能なエリア（病室）を把握しておくこと。
⇒電極はずれや、はがれ、電池切れ、電波不良、プリンタの用紙切れなどのテクニカルアラームを出来るだけ軽減する環境の整備が必要です。

みなさんの病棟でも心電図モニタの必要性、患者に合ったアラーム設定をしましょう。

また、心電図モニタのアラームに敏感でいられるための環境作り、モニタを安全に使用するヒントなどが盛り込まれている日本看護協会の「一般病棟における心電図モニタの安全使用確認ガイド」もご参照ください。

<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/sindenzu/zenbun.pdf>

